

国立大学法人で初めて、資金運用におけるOCIOを導入

【概要】

本機構は、国立大学法人で初めて資金運用におけるOCIO（アウトソースド・チーフ・インベストメント・オフィサー）を導入します。

OCIOとは、資金運用の方針や計画の策定、運用の執行、事務手続などを外部の専門家（コンサルティング会社、運用会社など）に包括的に委託するサービスです。近年、米国を中心とした海外諸国で年金、大学基金、財団などにおいて導入が進んでおり、日本国内でも2024年8月28日に内閣官房が策定した「アセットオーナープリンシプル」の中で、活用の検討が推奨されているところです。

本機構においては財務経営基盤強化の一環として、資金運用における目標利回りの引き上げを計画しています。資金運用体制強化のためには、CIO（チーフ・インベストメント・オフィサー）を採用することが一般的ですが、当機構が資金運用に求めるガバナンス体制などを考慮した結果、OCIOの方がより適していると判断しました。国立大学法人におけるOCIOの導入は前例がなく、当機構が初めての事例となります。

委託契約が開始される2025年4月以降は、OCIOを最大限活用しながら資金運用の高度化を進め、財務経営基盤の強化を進めてまいります。

なお、OCIOの選定にあたっては、公募により広く提案を募り、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社と契約することとしました。